

〈次年以降の開催にあたって〉

原子力学会との共催により、参加者数および予算の増加、企画内容の改良等々よい点が多かったです。

しかし、その一方で今回最も苦労したことは原子力学会との予算および企画調整です。本年度が初の共催ということもあり、学生と原子力学会で学会間の予算調整をしており、予算について多くの条件や情報の欠如があったため複雑化しました。議論もメールベースで行っていたため議論の遅延化が起きていました。以上については今回を踏まえ、両学会へ改善策を提案しましたので、特に予算につい

て学生で変えられない部分を両学会間で改善されることを期待します。この点の労力を軽減し、夏の学校の内容自体について企画する時間を費やすことで、よりよい夏の学校が実現できると思います。

最後に、お忙しい中ご足労いただいた講師の方々、参加者やスタッフの皆様のご協力により、無事成功に終わることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

次回第54回若手夏の学校は2015年夏、東京大学の主催で行われる予定です。

こちら編集委員会です

【発表！今年上半期の学会誌(1～6月号)でもっとも多くダウンロードされた記事はこちら！】

自然の驚異を強く感じさせられた今年も残すところ三か月あまりとなりました。さて、恒例となりましたオープンジャーナルでありますプラズマ・核融合学会誌のweb閲覧状況をご報告いたします。今年1月から6月までの学会誌掲載記事で平均月間ダウンロード数が最も多かった記事を調べてみました。

	記事種別	題目	第一著者(所属)
第1位	講座	プラズマプロセスを用いた炭素材料合成の実際と産業利用における課題 4. グラフェンの低温プラズマCVDと透明電極応用へのロードマップ	長谷川雅考(産総研)
第2位	解説	高温プラズマのX線観測で宇宙の大規模構造の形成を探る	大橋隆哉(首都大学東京)
第3位	小特集	宇宙気候学 2. 宇宙気候学の現状と課題	草野完也(名大)
第4位	講座	プラズマプロセスを用いた炭素材料合成の実際と産業利用における課題 3. プラズマCVDによる単結晶ダイヤモンド合成の現状と課題	山田英明(産総研)
第5位	講座	プラズマプロセスを用いた炭素材料合成の実際と産業利用における課題 2. DLC成膜プロセス研究の最前線	上坂裕之(名大)

今回はプロセスプラズマなどの産業利用に関する記事が多くダウンロードされています。学会誌から発しているこの分野におけるプラズマ研究に要求される正確な情報が、やはりオープンアクセスということで一般の方からの興味関心に応えやすい点も大いに貢献できているのではないかと思います。宇宙プラズマの記事も人気です。まだ目を通していなかった方は、学会誌を開いてもう一度読み返すか、Webでご覧になってみてはいかがでしょうか。プラズマ・核融合学会誌の記事は下記URLからご覧いただけます。

<http://www.jspf.or.jp/journal/index.html>

次回11月号は各地の紅葉も見ごろを迎えた頃、11月25日発行の予定です。

[11月号予告]

小特集 高速点火レーザー核融合実験の進展

小特集 太陽系プラズマ

講座 今日からはじめる磁場閉じ込めプラズマ実験